

報告書の構成と環境経営の全体像

リコーグループがどのように環境経営を推進しているのかを、その全体像(3本柱と基盤)に基づき、説明しています。

このページでは、報告書の全体構成、2006年度の社会からの主な評価や掲載内容が簡単にご確認いただけます。

リコーグループの環境経営の全体像 (報告書の構成)

●報告書の構成

この報告書は、リコーグループの環境経営の全体像と同じ構造になっています。

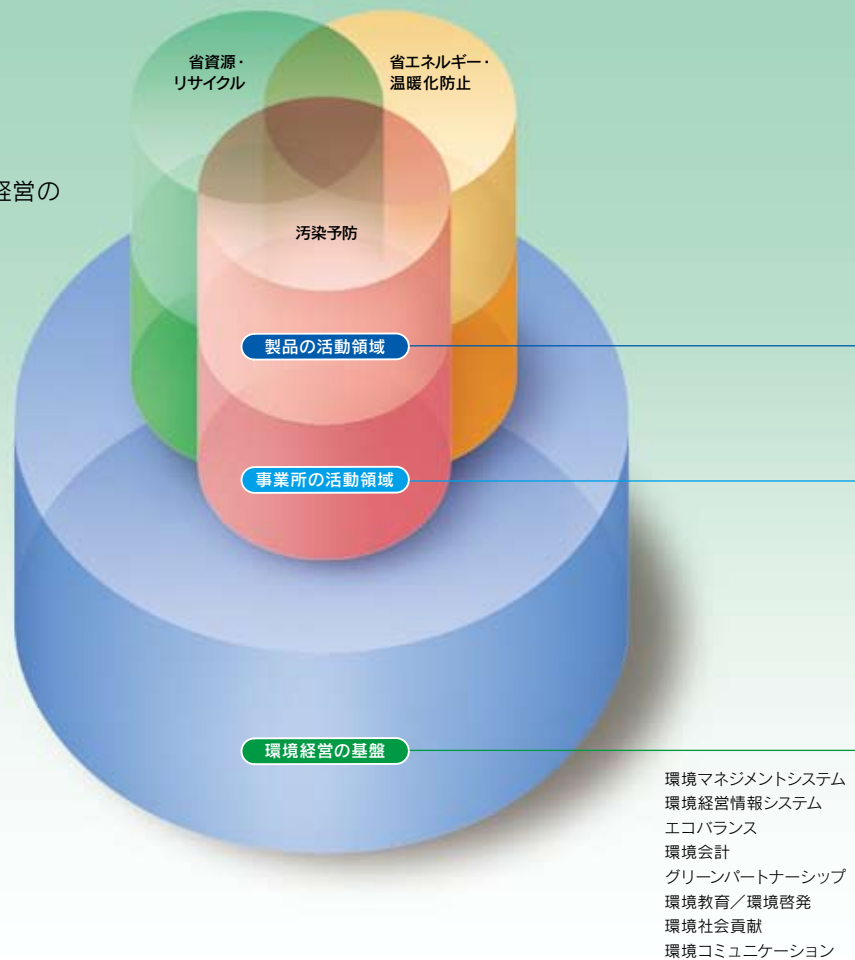
まず「環境経営の考え方」から始まり、

「製品に関する取り組み(3本柱)」

「事業所に関する取り組み(3本柱)」

「環境経営の基盤」

について説明しています。



環境マネジメントシステム
環境経営情報システム
エコバランス
環境会計
グリーンパートナーシップ
環境教育/環境啓発
環境社会貢献
環境コミュニケーション

■ 2006年度の社会からの主な評価

世界で最も持続可能な100社に選出

リコーは、カナダ・コーポレートナイツ社が、米国イノベスト・バリュー・ストラテジック・アドバイザーズ社の調査分析データをもとに評価する「世界で最も持続可能な100社」に3年連続で選出されました。

エコファンド、SRIファンドなどへの組み入れ

日本においてリコー株式会社は多くのエコファンド、SRIファンドに組み入れられ、運用されており、モーニングスター社会的責任投資株価指数にも2003年の創設時以来組み入れられています。また米国ダウ・ジョーンズ社とスイスのSAMグループによるDJSI (ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)に5年連続で、英国フィナンシャルタイムズ社とロンドン証券取引所の合弁会社FTSEグループによるFTSE4Goodグローバル・インデックスに4年連続で組み入れられました。
[組み入れ状況は2007年5月1日現在]



リコーグループの環境経営とは環境保全と利益創出の同時実現です

リコーグループの「環境経営」は、環境保全と利益創出の同時実現を意味します。これを「環境技術開発」「全員参加の活動」によって推進しています。「製品」および「事業所」、それぞれについて「省エネルギー・温暖化防止」「省資源・リサイクル」「汚染予防」の3つの領域で活動を展開し、その活動を効率的に推進するために「環境経営の基盤」を整備しています。

《参照ページ》

- 私たちの目指す姿「Three Ps Balance」…………… 15ページ
- 循環型社会実現のためのコンセプト「コミットサークル」…………… 16ページ
- 超長期環境ビジョンと環境経営の推進…………… 17ページ
- 2007年度までの環境行動計画と2006年度の成果…………… 21ページ

特集／環境経営の環を拡げる

現場で展開されるリコーグループのさまざまな環境経営活動をわかりやすくお伝えします。

リコーグローバルエコアクション…………… 9ページ



リコーツリーデティケーションプログラム…………… 11ページ



リコー・環境NPOミーティング…………… 13ページ



製品の3本柱に関する取り組み

- 製品開発の考え方…………… 23ページ
- 省エネルギー・温暖化防止…………… 25ページ
- 省資源・リサイクル…………… 28ページ
- 汚染予防…………… 31ページ

TOPIC

生産プロセスの環境負荷削減…………… 24ページ

INTERVIEW

- [社員に聞く] 植物由来トナーの開発…………… 23ページ
- [お客様に聞く] 佐川急便株式会社様…………… 27ページ
- [社員に聞く] リサイクル事業の黒字化…………… 29ページ
- [社員に聞く] 感光体ドラムのアルミ素管リユース…………… 30ページ
- [仕入先企業に聞く] 株式会社 美和テック様…………… 33ページ



事業所の3本柱に関する取り組み

- 省エネルギー・温暖化防止…………… 35ページ
- 省資源・リサイクル…………… 41ページ
- 汚染予防…………… 45ページ

TOPIC

リコーが推進するCDMプロジェクト…………… 39ページ

市民、地域、行政とのリスクコミュニケーションミーティングを開催…………… 46ページ

INTERVIEW

- [社員に聞く] 社用車の集中グリーン購買…………… 40ページ
- [廃棄物処理委託業者に聞く] 有限会社 坂井商店様…………… 44ページ



環境経営の基盤

- 環境マネジメントシステム…………… 49ページ
- 環境経営情報システム…………… 51ページ
- 環境経営評価手法…………… 53ページ
- グリーンパートナーシップ…………… 59ページ
- 環境教育／環境啓発…………… 60ページ

- 環境社会貢献…………… 63ページ
- 環境コミュニケーション…………… 71ページ

TOPIC

熱帯林・オランウータン生息域回復プロジェクト…………… 64ページ

環境保全の環を拡げる、お客様と一体となった活動…………… 70ページ



TOPIC

読者の皆様の関心が高い活動やリコーグループ独自の活動については「TOPIC」として取り上げました。

INTERVIEW

読者の皆様に、活動をより身近に感じていただけるよう、活動に関わった人々のインタビューを掲載しています。